

## 保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方

米増直美 松下光子 坪内美奈 森仁実 大井靖子 北山三津子 岩村龍子 大川眞智子(大学)  
居波由紀子 堀幸子(岐阜県・保健医療課)

### I. 目的

保健師の現任教育については、県の保健医療課が担当業務の一部として実施している。保健師現任教育の一環である「新任者研修」、「ステップアップ研修(4～5年目研修)」、「実習指導者研修」について、県立看護大学の公衆衛生看護領域を担当している教員が保健医療課の担当者と協力し、実施してきた。各研修の実施内容や時期について、互いに考えを出し合い、試行錯誤しながら実施しているが、保健師の生涯教育の長期的展望に立っての研修目標や計画は検討できていない。

大学教育においては、学士課程修了時に身につける保健師としての実践能力はどのような内容であるかを明らかにすることが求められており、このことは、卒業後にどのような能力がどのように高まっていくのか、そのための基盤となる力とは何かを併せて検討する必要がある。また、実践現場の状況として、県、市町村ともに政策や業務の変化、人員の削減、組織の変化、保健師配置場所の多様化など変化が続いており、保健師に求められる能力とその育成体制をあらためて検討する必要がある。

そこで、本研究では、保健師が実践活動を通してどのように実践能力を高めていっているのか、あるいは、高めていく必要があるのかを明らかにし、保健師の現任教育のあり方を検討する。今年度は、新任の保健師が実践経験の中で、どのような実践能力を身につけていくのかを明らかにする。そして、新任期の研修のあり方を検討する。

本研究は、まだデータ収集の段階であるため、本稿では研究計画と実施経過を述べる。

### II. 研究方法の検討

#### 1. 新人保健師へのアンケート調査の計画

例年、新人保健師に対して、7月と2月に研修を実施している。それぞれ、保健師としての実践を4ヶ月積み上げた時期、11ヶ月積み上げた時期である。新人期にどのような保健師活動を体験し、どのように実践能力を高めているのかを把握するために、それぞれの時期での実践経験の実態と新人保健師自身が「実践できた」という内容、さらに今身につける必要があると思うことは何か、を調べるアンケート調査を計画した。

#### 2. アンケート調査用紙の検討

保健師の実践能力を、どのような指標でとらえることができるのかを検討した。

検討した結果、本学の3年次領域別実習で示している実習目標を中核にし、現在「看護教育課程の中で到達すべき能力」として示されている表に示す資料を参考にしながら、保健師に必要な実践能力の項目を整理した。実習目標を中核にした理由は、本学では統合カリキュラムの中で看護の基礎的学習として3年次生全員が公衆衛生領域の実習を履修する。実習終了時が公衆衛生看護領域の基礎的学習をおおよそ終えているものと考え、この実習目標が、保健師としての実践の基盤となるものではないかと考えたためである。

#### 表 参考にした資料一覧

1. 学士課程で育成される看護実践能力の大項目・細項目(看護学教育の在り方に関する検討会報告)
2. 学士課程における保健師教育修了時に到達すべき能力(看護系大学協議会)
3. 保健師教育の技術項目と卒業時の到達度(案)暫定版(第7回看護基礎教育の充実に関する検討会資料)

#### 3. 調査項目と回答方法

最終的な調査項目は、大分類として【行政における看護実践】【看護過程の展開】【自らの専門性を高める】に分けた。【行政における看護実践】の実践能力としては、「所属組織と活動の成り立ちの理解」「施策化」「地域のヘルスケア体制整備」「健康危機管理」をあげた。【看護過程の展開】では、「地区活動の展開」「保健福祉事業の展開」「個人・家族への援助」「他機関・他職種との連携・協働」「住民との協働」「所属機関の保健師との連携・協働」をあげた。【自らの専門性を高める】では、「実践の中で研鑽する能力」をあげた。

さらに各実践能力の内容を中項目で示し、中項目レベルで実践経験有無を尋ねるとともに、実践経験有りと回答した実践能力の項目ごとに、具体的な内容を記述してもらうこととした。

#### 4. 倫理的配慮

対象者へ本研究の目的・方法、データは個人が特定されないように扱うこと、協力の有無により今後の研修で不利益はないことを説明した。2月も再度同様に説明する。(現在、岐阜県立看護大学倫理審査部会による倫理審査を受けている。)

#### 5. 研究取り組みの実際

保健師研修実施の主体は現地共同研究者(保健

医療課)であるため、今回データを取るようになった新人保健師研修会の目的・方法の検討、実施後の反省会等は保健医療課主体ですすめ、大学教員は協力する形で、一緒に検討した。アンケートの案は大学教員が考え、現地共同研究者と合意を得た。今後、調査結果の分析ならびに検討を実施するが、同様に、協働して実施する。

### Ⅲ. 共同研究報告と討論の会での討議内容

保健師の生涯学習・現任教育の現状と課題について意見交換をした。

#### 1. 現状と課題

討論に参加した保健師が所属する機関では、5年以上新規採用者がいなかったが、現状の業務内容や活動体制から感じられる新任期の課題がいくつか挙げられた。

1) 市町村合併により保健師の業務体制が変化した地域では、これまで(合併前)同じ事務室で保健師全体の動きを見渡すことができていたが、事務室が分かれたり、業務分担になったりしたことで、目の前の業務をこなすことが精一杯になり、保健活動全体を把握することが難しい。特に新任者にとっては「この地域の健康課題は何か」を把握することが難しい。

2) ベテラン保健師が地域包括支援センター等へ配置され、保健部門に新任者を含む経験年数が短い保健師だけが配置されているところもあり、仕事をしながら学ぶことができる状況なのか疑問である。

3) 新任者から新たな事業(活動)を開始したいと言われたとき、その活動の必要性の根拠として、「地域の健康課題は何か?」を尋ねたが答えは返ってこなかった。地域全体を見ることや、その地域の健康問題に対応した保健事業であることの意義が十分に伝えられなかった。

#### 2. 現任教育方法へのヒント

現任教育として良かったことや、日頃の業務の中で学ぶことへの意見が出された。

1) 以前は「管内保健師研修会」があり、保健所保健師と保健所管内市町村保健師が集まり、情報交換や研修をする機会があったので、お互いに刺激にもなった。また、新任期のころに、保健所保健師から地区活動計画を見てもらい、指導を受けたこともあった。活動上でできていないところ、問題点を自覚して活動していくことは大事と思う。

2) 「ステップアップ研修(4~5年目)」に参加した保健師が、職場に課題を持ち帰り、他の保健師とも共有する中で、研修に出た保健師だけでな

く、他の保健師にも勉強になった。

3) 業務分担になっていると地域全体を見るのが難しい。しかし、先輩が担当している業務を手伝うこともあるので、そのときに単なる手伝いとして関わるのではなく、その業務の目的や意図を尋ね、理解して携わることにより、先輩の仕事から学ぶことができる。

4) 業務分担ではあるが、「健康づくり計画」を保健師全員が関わって作った。その過程で意思統一ができたように思う。

5) 予算削減される中、研修旅費もカットされている。保健師を育てるということに予算配分されても良いのではないかと?

#### 3. その他

1) 保健師活動の楽しさとは、地区活動計画を自分で立てて、活動できることだと思う。その楽しさを特に新任者の方には分かってもらいたいし、保健師で共有したい。

2) 欠員、産休等もあり、十分な人数とは言えないが、保健師同士で助け合い、支え合いながら働ける職場環境づくりをしたい。

#### 4. まとめ

新任期には、目の前の業務を実施することが精一杯で、業務を実施することが目標になってしまう現状がある。「地域の健康問題の把握」を出発点とする「地区活動」の実践能力を育てていくことが課題としてあげられる。

「なぜこの活動をするのか」、「地域の健康問題をどう捉えているのか」等の保健師の考え・意図をお互いに意見交換しあう中で、保健師自身の保健師として大事にすべき考え方が磨かれていくのではないだろうか。それは、新任期に限らず、すべての保健師が学びあうことができる方法である。「皆で助け合っていきたい」という意見の中に「保健師同士、学び合おう」という意味が込められていると感じた。すべての機関が業務多忙であるが、保健師同士、コミュニケーションを活発にし、新人もベテランも、お互いに学び合える環境を作っていきたい。

### Ⅳ. 今後の予定

2月19日に新人保健師後期研修を実施し、協力が得られた新人保健師にアンケート調査を実施した。これからこの調査結果を分析し、新人保健師の実践能力の現状を明らかにする。そして、新人研修の在り方を検討していく。さらに、新任期に限らず、保健師の現任教育の在り方を検討していきたい。

